此の素晴らしき世界

游

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
此の素晴らしき世界

【Ｎコード】
Ｎ７０７１Ｅ

【作者名】
游

【あらすじ】
何でも願いが叶う幸福の国、すべてを手に入れた人々が最後に望んだものとは？長編『夜伽語り』の圧縮版。

そう、そこは天国でした。

空には巨大な太陽がうかび、眩しい輝きが生きる者たちを暖かく包み込んでいました。人々は笑顔にあふれ、すべては充ち足りていました。

そこでは、考えうるかぎりのすべての幸福が、形となって目の前に現れました。何でも願いごとを叶えてくれる神様というものが、たしかに存在していたのです。人々は幸福の神様を信じ、あらゆる願いごとが現実となりました。晴天を願う者には晴天が、風を願う者には風が、雨を願う者には雨が、物が腐りカビが生え、植物が枯れ果てようとも、地面が水につかり、腐爛しはじめた自分の体までもが異臭を放ちはじめたとしても、雨を願い続けるかぎり、永遠に雨は降り続いたのです。神様はどのような願いをも聞き入れ、実現させました。そこでは、永遠の太陽や永遠の月を、永遠の命や永遠の死を得ることさえも許されました。

そこではすべてが許されました。

多くの人々は永遠の命を求めました。永遠の命の前では、もう時は必要ありませんでした。十年の遅刻も、百年ぶりの再会も、永遠の時の前では無に等しかったからです。考えうるかぎりの幸福を手に入れ、考えうるかぎりの不幸を味わい尽してしまった者にとっては、幸福も不幸もありませんでした。欲望も次第に消えてゆきました。望む望まないにかかわらず、いつかはすべてが実現されるはずだったからです。生きることにあきれば死を望むだけでよく、そして望めばいつでも生き返ることができました。何をしようが、何が起ころうが、人々は何も感じませんでした。すべてが許される世界。

ただひたすら、暇つぶし、退屈しのぎに精を出す人々。すべてはキリのない、永遠の繰り返しにすぎませんでした。

そこではすべてが許されました。

人々は退屈しのぎに犯罪と呼ばれる遊びを楽しむこともありました。強盗も誘拐も、他人の命を奪うことまでもが退屈な遊びだったのです。どんな罪を犯すことも許され、罪を犯した者を裁くことさえも許されました。永遠の中では、懲役にも、好きな時に生き返ることのできる死刑にも意味はなかったのです。死刑囚は、自分の意志で死ぬのか、他人の意志で死ぬのかさえわからなくなっていましたし、わかることが必要だとも感じなくなっていました。すべてが実現され、すべてがいつかは起こりうる永遠の世界の中では、自分の行動も他人の行動も、また、自分の意志であろうが他人の意志であろうが、大して違いはありませんでした。それが自分自身の思いなのか、それとも誰かが自分に思わせているのかは、誰にもわからなかったからです。死刑囚たちは、決まってこうつぶやいたものでした。「本当にオレは、あの裁判官の命令で殺されるのだろうか。いや、実はオレ自身が死を望んでいるのかも知れない。だからこそ神様が、あの裁判官に死刑を命じさせたのかも知れない。死刑を命じさせたのは、実はオレ自身の思いなのかも知れない。まあどっちにしろ、大したことじゃない。どうだっていいことだ」と。同時に裁判官はこう言いました。「本当に私があの者に死刑を命じたのだろうか。あの者がそれを望んだのではないのか。そしてあの素晴らしい幸福の神が、私を使って死刑を命じさせたのではないのか。実はそうなのかも知れない。そうではないという証拠はどこにもないではないか」と。

とにかくすべてが実現されるのです。自分の意志は他人の意志でもあり、同時に神様の意志でもありました。誰の意志でもよかったのです。誰のものでもあり、誰のものでもなかったのです。とにか

く、意志の存在だけが確かでした。人々はそれぞれ自分を神様だと信じ、目の前に広がる世界のすべては、自分の意識が創造したものだと信じ込みました。そう信じることによって、それは現実となったのです。すべての人々は神様になりました。ただそう信じるだけで十分でした。自分が神様なのか、それとも神様に造られた存在なのかは、誰にもわかるすべがなかったからです。それに、何になろうとも、何も変わりはしませんでした。永遠の時間の中で、変化は消滅してゆきました。すべての行為は、すでに過去においてなされたことのある行為にすぎませんでした。そのうえ、永遠の中では、過去も現在も同じことでした。あらゆる物事が、まるで同時に起こったように感じられたのです。

すべては繰り返しにすぎませんでした。

繰り返しにあきた一人の神様が、自分の中の記憶を消すことを思いつきました。記憶を消すことによって、何でも叶えてくれる神様の存在を忘れ、退屈な、永遠に続く繰り返しの中から逃れることが出来るのではないか、はるか昔もっていたはずの感情を取り戻すことが出来るのではないか、と考えたのです。時が流れを止めたその土地では、一人の神様の意志は同時にすべての神様の意志でもあり、すべての神様の意志は同時に一人の神様の意志でもありました。すべての神様は、記憶を、過去を消し去りました。神様たちは、真っ新な、もとの人間に戻りました。しかし無駄でした。失った記憶を再現するのに、何十億、何百億年かかろうとも、永遠の命の前では、どんなに長い時間の経過も無に等しかったからです。

すべては繰り返しにすぎませんでした。

やがて人々は、限りのある命と、そしてすべてを叶えてくれる神様の死を願いました。それもまた、永遠に続く繰り返しの中の、ほ

んの一事象にすぎないとわかっていながら。

願いは叶えられました。

目の前には、今まで何度も見てきたはずの、それでいて初めてながめる景色が、いつもと同じように広がっていました。

そう、そこは天国でした。

（了）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n7071e/

此の素晴らしき世界

2010年10月9日11時26分発行